

第1章 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、令和6年度（2024年度）から令和8年度（2026年度）までを計画期間とする「第9期吹田健やか年輪プラン（吹田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画）」の策定にあたり、高齢者の日頃の生活や健康の状況、サービスの利用意向などを把握することを目的に実施しました。

2. 調査の種類

調査区分	調査の対象
①高齢者調査	令和4年（2022年）12月31日時点で、65歳以上（要介護1～5を除く）の高齢者から無作為抽出した3,000人
②要介護認定者調査	令和4年（2022年）12月31日時点で、65歳以上の要介護1～5の認定を受けている高齢者、かつ在宅で生活をする人から無作為抽出した2,000人

3. 調査方法

郵送による配布・回収

4. 調査期間

令和5年（2023年）2月1日から令和5年（2023年）2月15日まで

5. 回収状況

	母集団	配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率	無効票※
①高齢者調査	76,850人	3,000件	1,755件	58.5%	1,744件	58.1%	11件
②要介護認定者調査	9,582人	2,000件	919件	46.0%	911件	45.6%	8件

※無効票は宛先不明等で、返信されたもの

6. 信頼区間

- 本調査は、全数調査ではなく標本調査であることから、標本誤差が生じることがあります。そのため、下記の計算式で信頼区間を求め、95%の確率で結果が収束する区間を算出します。

信頼区間 (95%) = $\pm 1.96 \times$ 標本誤差

$$\text{標本誤差} = \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(100-p)}{n}}$$

N : 母集団
n : 有効回答者数
p : 回答比率 (%)

	p (%)				
	50%	40% 60%	30% 70%	20% 80%	10% 90%
①高齢者調査	±2.32	±2.27	±2.13	±1.86	±1.39
②要介護認定者調査	±3.09	±3.03	±2.83	±2.47	±1.85

※表の見方：高齢者調査のある設問で、全体の回答が『80%』であった場合、80%を中心に±1.86、つまり、真の値は『78.14%~81.86%』の間にあると推定してよいが、その推定が正しい確率は95%です。

7. 報告書の留意点・見方

- 表・グラフに付加されている「n」は質問に対する回答者数を表しています。
- 結果数値(%)は、小数点第2位を四捨五入しており、内訳の合計が100%にならないことがあります。
- 複数回答の場合、回答者数に対する割合を表示しているため、構成比の合計が100%を超えます。
- 表・グラフ中の「不明・無回答」の表記について、無記入、回答の読み取りが著しく困難な場合、1つまでの回答を求めている設問に対し2つ以上回答していた場合は「不明・無回答」として処理しています。
- 性別や年齢などのクロス集計では、各クロス項目の「不明・無回答」を表記していないため、「全体」の回答数とクロス項目の回答数の合計は一致しません。
- 各設問の分析のコメントにおいて、コメントの前に「○」がついているものは単純集計結果、「●」がついているものはクロス集計結果の内容を記載しています。
- 前回調査とは、平成31年度(2019年度)に実施しました同調査を指します。今回行った調査と前回調査では対象者の抽出方法が異なることから参考として前回調査と比較しています。
- 大阪府調査とは、令和4年度(2022年度)に実施された「高齢者の生活実態と介護サービス等に関する意識調査」を指します。
- 調査結果で表記している回答者の意味は以下のとおりです。
 - 自立・要支援者：高齢者調査の対象者(自立の人、事業対象者、要支援者)
 - 自立：介護保険の認定等を受けていない65歳以上の市民。
 - 要支援者：要支援認定を受けている65歳以上の市民。
 - 要介護者：要介護認定者調査の対象者(要介護認定を受けている65歳以上の市民)。
 - 主な介護者：要介護者を介護している主な家族・親族等(ホームヘルパー等の介護者は除く)。